

# インターネットテレビの視聴データによる メディア・コミュニケーション研究

高野 雅典<sup>1</sup>

## Media Communication Studies with an Internet TV Dataset

MASANORI TAKANO<sup>1</sup>

### 1. はじめに

現在、非常に多くのヒトが日常生活の一部として、さまざまな Web アプリケーションを利用している。Web アプリケーションでの行動は Web 以外の社会現象にも大きな影響を与えるため、Web 社会を理解することは重要であろう。例えば、検索エンジンの検索結果は選挙の投票行動に影響を与え [1]、インターネットに溢れる差別的な言説はその情報に接触した人の偏見を強化する [2]。

本発表では特にメディア接触が人や社会に与える影響について、インターネットテレビ局 AbemaTV の視聴・コメントデータを用いた研究について紹介する。AbemaTV には約 20 の各種専門チャンネル（ニュース、スポーツなど）があり、番組表にしたがってリニア放送がパーソナルコンピュータやタブレット、スマートフォンを使って視聴できる Web サービスである。放送されるコンテンツやユーザー体験はテレビに近い。

### 2. 「チラ見」によるニュース接触と政治知識・関心

本研究では AbemaTV における「チャンネル変更の際のチラ見」が、普段ニュースを見ない人に対して与える影響を分析した。

Web メディアにおける「さりげない情報提示」により、閲覧者が関心を持たない対象についても知識が与えられたり行動が変わることがある。AbemaTV を含むテレビ番組のような受動的でパッケージ化されたニュースメディアによる情報は受け手の知識の平均化をもたらす。すなわちニュースについて無関心・無知識である人に対して情報を与えることが効果が期待できる。また情報を得ることで

関心が高まることも期待できる。

分析の結果、「チラ見」の政治知識への影響は視聴者の政治知識に依存しており、視聴者が政治知識をある程度持つときに限り正の影響があることがわかった。これは「さりげない情報提示」での知識獲得には基礎となる知識が必要であることを示唆する。

### 3. ニュース接触とレイシズムの表出

本研究では AbemaTV のニュース番組における「ユーザーが投稿する差別的コメント」と「ニュースコンテンツ」の関連について「2 種類の偏見（現代的レイシズムと古典的レイシズム）」という観点から分析した。

我々は現代的/古典的レイシズムの表出要因を番組と人に分離するモデルを提案し、AbemaTV の番組につけられた差別的コメントに適用して分析した。その結果、先行研究 [2] でも観測されたユーザー単位での現代的レイシズムと古典的レイシズムの相関を確認した。一方で、そのユーザーが表出するレイシズムとは番組の内容に依存することが示された。

番組は視聴者の偏見表出に与える影響の性質から 3 種類に分類された。そのうち 2 つはユーザーの態度が弱くてもレイシズムの表出を喚起してしまうもの、もう 1 つは極端な態度のユーザーのみが態度を表出する番組である。この性質は現代的/古典的レイシズムで違いはなかった。これはレイシズムの表出を禁止する場合の対策を番組単位（前者）かユーザー単位（後者）のどちらの観点で実施すべきかが、番組によって異なることを示唆する。

### 参考文献

- [1] R Epstein & R Robertson. The search engine manipulation effect (SEME) and its possible impact on the outcomes of elections. *PNAS*, Vol. 112, No. 33, pp. E4512–21, 2015.
- [2] 高史明. レイシズムを解剖する. 勁草書房, 2015.

<sup>1</sup> 株式会社サイバーエージェント  
CyberAgent, Inc.